



### 伊良湖神社境内図

明治39年の伊良湖村の移転を機に地元の人々の願いにより描かれたもの。磯丸の時代よりも後に描かれたものだが、当時の旧境内地の様子を詳しく知ることができる。  
(明治39年[1906]／個人蔵)

親孝行の新之丞は、母の病気が早く治るように、近くの伊良湖明神（神社）へ3年間も裸参りを続けました。その願いが神様に通じたのか、母の病気は良

くなつていきました。伊良湖明神に裸参りを続けていたある日、参詣人が神社にある奉納額を見上げて和歌を詠み上げての聞き、新之丞は和歌の不思議な響きに興味を持ちました。この時、35歳。このことが和歌を志すきっかけとなりました。

### 生涯の師と二人の師

もともと漁師で読み書きが得意な新之丞でしたが、歌に興味を持つて作りはじめると、努力して少しずつ読み書きができるようになりました。

**糟**谷磯丸は、今から250年前の明和元年（1764）5月3日、伊良湖村（現在の伊良湖町）に住む漁師の家の長男として生まれ、名前を新之丞といたしました。

### 磯丸が歌を始めましたきっかけ

くなつていきました。

伊良湖明神に裸参りを続けていたある日、参詣人が神社にある奉納額を見上げて和歌を詠み上げての聞き、新之丞は和歌の不思議な響きに興味を持ちました。この時、35歳。このことが和歌を志すきっかけとなりました。

んでいました。常蔭は和歌を作ることが上手で、学問にも武道にも優れた人でした。

常蔭は新之丞のうわさを聞くと自宅に招き、その人柄を大変気に入りました。和歌や読み書きを熱心に教え、「磯丸」という名前も授けました。磯丸の名前をもらった新之丞は、ますます歌を作ることに夢中になり、最初の先生である常蔭を生涯「師の君」として尊敬しました。

文化元年（1804）、磯丸が40歳の時、吉田（現在の豊橋）に住む女流歌人林織江が伊良湖周遊の旅をしました。磯丸は織江の荷物を持って案内をしました。織江は磯丸の作った和歌に興味を持ち、自分の先生である京都の公家芝山大納言持豊に紹介しました。持豊も磯丸のことを気に入り、その場で自分の弟子に加え、「貞良」の名前を与えました。

磯丸は、この後たびたび芝山家を訪ね、その家族にも親しまれました。磯丸は一般の人が見られない宮中行事や歌の会を間近にし、さらに見聞を広め、ますます歌がうまくなつていきました。

す歌がうまくなつていきました。

### いのりの磯道

道の駅伊良湖クリスタルポルトから伊良湖岬灯台へ続く遊歩道。磯丸のまじない歌などの歌碑が並ぶ。  
(伊良湖町)



### 伊良古之記

豊橋の女流歌人林織江が伊良湖を旅した時の紀行文。若き磯丸のことが記された貴重なもの。林織江筆。  
(文化元年[1804]／個人蔵)

